

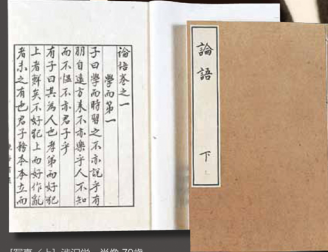
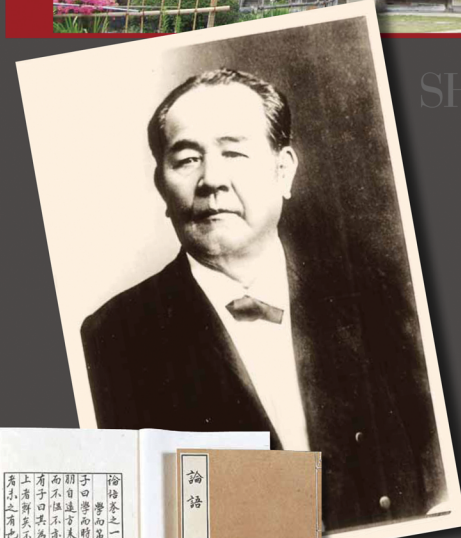
渋沢栄一生地「中の家(なかのち)」



SHIBUSAWA EIICHI

明治の偉人 渋沢栄一の思想を読む

前号に引き続き、明治の偉大な実業家・渋沢栄一を特集します。今回は彼の思想「道徳経済合一説」について詳しく見ていきます。



【写真/上】 渋沢栄一肖像 70歳
【写真/下】 栄一が自らの倫理規範とした『論語』(渋沢栄一館蔵)

“論語と算盤”と“道徳経済合一説”

社会の発展と道徳の重要性
渋沢史料館には、渋沢栄一の肉声で吹き込まれた『道徳経済合一説』についてのレコードが展示されています。この中で栄一は「仁義道徳と生産殖利とは、元来ともに進むべきもの」として、経済活動に道徳が不可欠であることを主張します。そして、多くの道徳哲学が利を現しめ、清貧を唱えていると一般に考えられる孔子(※注)孔子のことの教訓は、決して左様のものではない。「孔子は、義に反した利は、これをいまいしておりませんが、義に合した利は、これを道徳に適うものとしておる」とは、(論語の中にある)「富貴をいやしむる言葉は、みな不義の場合に限っておるにや」と、明らかであります」と、論語に儒教が経済活動を否定していることをいっています。

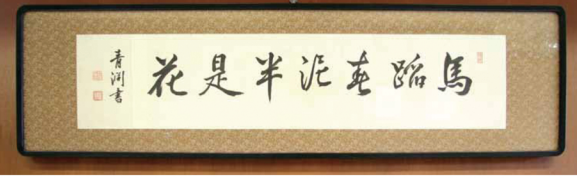
また、栄一は、「しかしかゝるに、世の中がだんだん進歩するにしたがつて、社会の事物もますます発展する。ただしそれに伴うつて、肝要なる仁義道徳というものが、ともに進歩して行くかというところ、残念ながら「吾」と答えるを得ぬ」と現状を憂い、だからこそ「道徳」と(経済)の合一が必要であるといっています。

論語と算盤をひもとく

こうした栄一思想に触れることのできる書物として「論語と算盤」があります。同書は大正5年(1916)に出版され、現在まで広く読みつがれています。つい先頃にも、筑摩書房から新版で現代語訳が刊行されましたので、手に取られた方も多くいただろうでしょう。

「前略」せひとも大なる欲望をもち利殖を図ることに充分でないものは、決して進むものではない。ただ空理に趨り虚榮に赴く国民は、決して真理の発達をなすものではない」
「(国家の)富をなす根源は何かといえば、仁義道徳。正しい道理の富でなければ、その富は完全に永続することができぬ」(P.22)

栄一は、道徳を経営や経済活動だけでなく、国家の根幹としても考えていました。道徳、倫理がなければ国も道徳も本に生きる私たちも、よくかみ縮めるべき言葉でしょう。



【写真/上】当所金銅室に飾られている渋沢栄一(青洲)の書「馬蹄花泥半是花(馬、蹄花を踏むに、半ばこれ花か)」

同書は、タイトルに「論語」と書かれていますが、直接に引用されている部分には案外少なく、また孟子や荀子など論語以外からの引用も見られます。論語そのものの解説本ではなく、その教えを噛み砕いて、栄一自身の言葉にして語った本と云っていいでしょう。その分、栄一の「道徳経済合一説」エッセンスが色濃くあらわれている書物となっております。

士魂商才

「士魂商才」というのも同様の意義で、人間の世の中に立つには、武士的精神の必要であることは無論であるが、しかし、武士的精神のみに偏して商才というものがなければ、経済の上から自滅を招くようになる」

「その士魂を養うには(中略)やはり論語は最も士魂養成の根柢となるものと思う。それならば商才はどうかというに、商才も論語において充分養える

SHIBUSAWA EIICHI

“論語と算盤”と“道徳経済合一説”

商業と公益

「もし商業に於て物を増殖するの効能がなかつたならば、すなわち商業は無意味になる。中略」その利殖を図るものも、他はほとんども宜かろうというところをもつて、利殖を図つて行つたならば、その事物は如何に相なるか」

「真正の利殖は仁義道徳に基づくなければ、決して永続するものではないと私は考える」(P.124)

こう説く一方で、栄一は「空理空論なる仁義」が国を滅ぼすとも指摘します。仁義と利殖とはバランスをとっていなければ、国は富まず、社会も良くならず、ひいては私たち自身の生活も向上していかない、というの考え方です。決して、個々人の利益だけを考へる思想ではないのです。

道徳は日常にある

「全体道徳は日常にあるべきことで、チヨトト時を約束して開通せぬようにするものも道徳である。人に対してするべきものは、相対に譲るのも道徳である。(中略)道徳というものは、朝に晩に始終付いておるものである。この時間が道徳の時間だといふような、偉大なものではない」(P.236)

この部分は、当時深刻になりつつあった日本の貿易摩擦を背景にしています。輸出業者はアメリカの業者と競争することはいいが、相手の利益をただ奪うだけの競争はいけなと説く中で、道徳に触れている道徳を抜き出した重要性を説いています。よく一部だけの紹介ですが、これだけでも長く読みつがれる理由が分かると思います。この本は、決して今で言う「自己啓発」や「ビジネス理念」などを説いたものでもありません。もっと深く、広く、世界や日本から個人の営みまでを語ったものであり、だからこそ「栄一」は海外からも注目されるようになったのです。

今回は原文からの引用ですが、現代語訳も出ていますので、ぜひ一読ください。



【引用先】『道徳経済合一説』(角川文庫) (P.124)

2号にわたって特集してきた渋沢栄一の足跡をたどると共に、現代に生きる栄一の企業家精神にスポットをあてたイベント「渋沢栄一に学ぶ『企業家精神再発見事業』」を、当所と(財)渋沢栄一記念財団の主催により開催します。

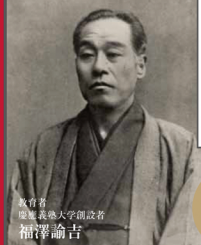
入場無料

渋沢史料館 出張展示 in 宇都宮

「渋沢栄一～近代日本経済社会の基盤をつくる～」

【日時】9月1日(水)～9月5日(日)
午前10時～午後9時(最終日は午後5時まで)

【場所】福田屋ショッピングプラザ宇都宮店 3階大催事会場
パネル展示を中心に、渋沢栄一の事績と生涯を分かりやすく紹介いたします。



教育者 慶應義塾大学創設者 福澤諭吉

聴講無料

シンポジウム

「関東八州宇都宮と近代日本社会のリーダーたち」
「渋沢栄一・福澤諭吉・大隈重信」

【日時】9月8日(水) 午後6時～9時
【場所】ホテルニューイタヤ3F 天守の間
※事前申込が必要です。定員250人(先着順)



政治家 早稲田大学創設者 大隈重信

「渋沢栄一に学ぶ」 「企業家精神再発見事業」 開催

聴講無料
講演会

「ここに万古不易の
企業家精神がある」

【日時】9月6日(月)
午後2時～4時

【場所】宇都宮東武ホテルグランデ
4F 松柏

【講師】佐藤 茂雄 氏
京阪電気鉄道株式会社
代表取締役CEO
大阪商工会議所会頭

※事前申込が必要です。
定員250人(先着順)

◎パネリスト(ディスカッション)
バナリスト 島田昌和氏(文京学院
大学大学院経営学研究科教授)、都
倉武之氏(慶應義塾大学
福澤研究センター専任講
師)、五百旗頭薫氏(東京
大学社会科学研究所准教
授) / ティスカット 仲
川順子氏(奈良NPOセン
ター理事長) / 司会 松
本和明氏(長岡大学経済
経営学部准教授)

申込・問合せ 経営支援部(企業家精神再発見事業担当) ☎637-3131



日本資本主義の父 渋沢栄一

業化の時代に視覚的な面からも接近できるよう、情報資源化を進めています。



事業例：実業史錦絵索引

協力事業

実業史関係を中心に、日本についての資料・情報に対する、国際的なアクセスや利用の円滑化を目指した事業に協力しています。

財団法人渋沢栄一記念財団
実業史研究情報センター
〒114-0024 東京都北区西ヶ原2-160-1
☎03-3910-0029
ホームページ
<http://www.shibusawa.or.jp/center/index.html>

SHIBUSAWA EIICHI

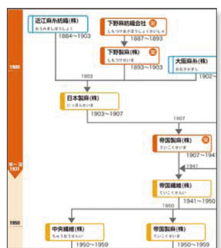
財団法人渋沢栄一記念財団 実業史研究情報センター

実業史研究情報センターは(財)渋沢栄一記念財団の3つの事業部として、平成15(2003)年11月に設置されました。実業史を背景におき、歴史的な文脈の中で渋沢栄一をとらえるために、豊富な参照手段を備えたデジタル・ライブラリーの構築を目指しています。

■ 社史プロジェクト
企業の歩みに現れた、近代日本の経済活動の歴史や社会的影響について、情報源を提供しています。あわせて企業アーカイブスの振興にも取り組んでいます。

■ 社史紹介(速報版)
『帝国製麻株式会社三十年史』【帝国製麻、1937】
■ 会社名
帝国製麻株式会社
■ 社史紹介
内務省特許官団結作(よしだ・けんさく、1853-1892)はフランスで製麻師を学び、1881年(明14)帰国して製麻業創立を各地に企図。1884年(明17)近江蘇州結、1887年(明20)北海道製麻会社、下野製麻会社を創立し、関わる。日清戦役の不足を乗り切ると同時に、下野の製糸と製麻業を合併し、1903年(明30)日本製麻設立。1907年(明40)には北海道製麻も合併し、帝国製麻が誕生。朝鮮や九州にも工場を作り、業務を拡大する。(渋沢栄一は北海道、下野、帝国各製麻会社に関わる。)

■ 実業史錦絵プロジェクト
幕末明治期のもづくり・産物・職業などの、産業シーンを描いた「実業史錦絵」を通じて、近代化・産



事業例：渋沢栄一関連会社名変遷図



渋沢栄一の生まれた場所、血洗島にほど近い、清水川と青淵公園を臨む場所に立てられているのが、渋沢栄一記念館。平成7年11

月11日、栄一の祥月命日に開館し、深谷市の観光スポットとしても人気を集めています。
前回ご紹介した「渋沢史料館」が財団法人渋沢栄一記念財団の管理だったのに対し、こちらは深谷市が管理する公共施設。建物裏側には、栄一の大きな銅像があり、あたかも故郷を見守っているかのようです。
また、この周辺には生地「中の

家(なかんち)」や、若き日の栄一の師だった尾高藍香生家、栄一の号「青淵」の由来となった池など、さまざまな場所があります。
記念館は常時約140点が展示。栄一の若い頃の足跡をたどるとともに、当時の社会の状況がわかるような企画展も開催されています。
栄一だけでなく、地域の歴史を学ぶことも展示の目的で、地域コミュニティ形成にも一役買っています。

渋沢栄一記念館
〒366-0002
埼玉県深谷市下手計1204
☎048-587-1100
【休館日】 毎週火曜日



渋沢栄一記念館